

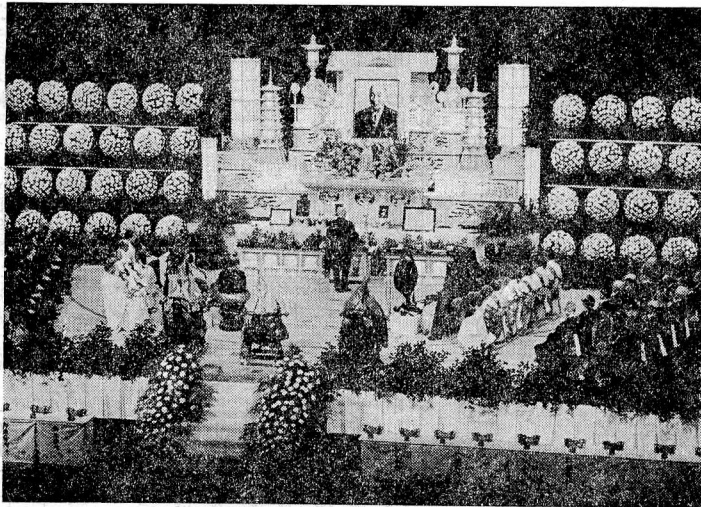
洛友会会報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

故平井前会長の死を悼む

おごそかに社葬行なわれる

一月二十三日、急逝された常勤の社葬が二月七日午後二時から宮相談役、前会長の故平井寛一郎氏 城県民会館で執り行なわれた。



社葬は二十二人の僧侶の読経ではじまり、葬儀委員長の若林社長は、故人が当社発展と東北開発に残した数々の功績をたたえ「今、まさに真の東北時代が開かれようとしておる矢先に、かけがえのない偉大な指導者を失ったことは当社のみならず、これからの東北のため、国家のためにも計り知れない一損失である。私どもは

故人の遺志を継ぎ、電気事業の使命達成と東北地方の発展のため、さらに一層努力することを誓う」と追悼の辞を述べた。

引き続き、横山通夫、中部電力株式会社相談役、土光敏夫、経済団体連合会会長、日向方資、関西経済連合会会長、山本壮一郎、宮城県知事、服部敬雄、東北経済連合会副会長、一本松珠璣、日本原子力発電株式会社相談役の各氏が弔辞を述べたあと、会葬者は故人の死を悼んで焼香した。

祭壇には、今もなお東北の発展を祈っているかのような平井前会長のありし日の遺影が菊の花に囲まれ、約二、〇〇〇人の会葬者は故人の冥福をお祈りするとともに、とわの別れを告げた。

(東北電力社誌より転載)

略歴
明治34年12月15日 京都府に生まれる

大正15年3月 京都帝国大学工学部電気科卒業

昭和15年4月 大同電力株式会社入社

昭和14年4月 日本発送電株式会社に承継

昭和20年4月 同社資材部長

昭和21年7月 同社理事資材部長
昭和23年5月 同社理事近畿支店長
昭和24年9月 同社理事関東支店長

長

昭和25年7月 同社理事事務部長

昭和26年1月 同社退職 公益事業委員会技術長

昭和27年9月 電気事業経営者会議(後に電気事業連合会と改称)事務局長

昭和27年11月 関西電力株式会社取締役

昭和31年7月 同社取締役黒部川第四水力発電所建設事務所所長

昭和33年5月 同社常務取締役

昭和34年11月 同社取締役副社長

昭和35年11月 同社兼任

昭和35年12月 電源開発株式会社副総裁

昭和37年11月 東北電力株式会社取締役

昭和37年12月 同社取締役社長

昭和44年11月 同社取締役会長

昭和52年6月 同社取締役会長退任

昭和52年7月 同社常勤相談役

社外での主な役職

東北経済連合会会長

東北開発審議会会長

日本経営者団体連盟常任理事

(社)経済団体連合会常任理事

中央労働委員会使用者側委員

産構審東北地域産業構造分科委員長

国有財産東北地方審議会会長

日本国有鉄道東北評議員会評議員

北海道東北開発公庫運営協議会委員

宮城県都市計画地方審議会委員

宮城県自然環境保全審議会委員

宮城県海洋法問題対策協議会委員

宮城県行財政懇談会委員

仲台市高速鉄道促進協議会顧問

(財)仙台国際友会理事長

このほか東北関係は勿論、各方面の重要な役職を多数つとめられた。

栄誉

昭和35年11月 藍綬褒章受章

昭和38年6月 銀杯下賜(黒四初代建設事務所長として)

昭和48年4月 勲二等旭日重光章受章

昭和53年2月 従三位勲一等瑞宝章受章

副会長平井寛一郎殿の御逝去を悼む

洛友会会長 松田長三郎

日、御家族のお手厚い御看護も空しく、仙台にて逝去されました。

本会副会長・東北支部長平井寛一郎さんには、去る一月二十三日

ご生涯の輝やかしい御経歴と御功績を偲び、謹んで哀悼と感謝の誠意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げますとともに、令夫人様初め御遺族様の御多幸をお祈り申し上げます。同氏の偉大な御業績については、別項に詳報されていますので省略致しますが、私は第一に、そのお人柄にうたれます。同氏を偲ぶとき、その御温容が目には浮びます。あれは何年でしたか、私が東上の際、関西電力が社運を

平井寛一郎君を悼む

日本原子力発電相談役
大正十四年卒

一本松珠璣

平井君が亡くなった。高等学校入学以来、五十九年間、ずっと切れ目のない交りをつけて来た親友中の親友であった。
心のどこかに穴のあいたような気がする。

お互に人間形成は三高の時代であったと思う。入学の時同じクラスであって、若きエネルギーを発散するクラス活動を共にした頃からの同志という仲間であった。野球の応援とかクラス会とか。平井君には京都一中からの仲間があり、私には天王寺中学の仲間があった。私は弁論部で大宅壯一君や淡徳三郎君などがあり、平井君には佐藤秀堂君や杉野忠夫君などの

睹して敢行された黒四の工事視察に、太田垣社長とお二人で、黒部へ行かれた際、京都から名古屋まで、同車して、種々お話しを伺ひ、一度見に来て下さいと云はれました。最近には、昨年、御卒業五十周年の記念会に、御夫妻で京都にお出でになり、共にお元気なお姿に接したのが最後でありました。東北の巨星墜つたの感、一入であります。茲に重ねて御冥福をお祈り申し上げます。

特別の友があり、お互に親しくつき合ったものである。

三高を卒業して一しよに京大電気工学科に入ったが、三高の延長としての比較的陽気な生活が続いた。二年の夏の実習に、君は東京芝浦電機への実習で、関東大震災に、言うならば直撃せられ病を得た。私は君の休んでいた下宿を訪れ色々相談にも与った。佐藤君や杉野君が心配していたように思う。そして一年休学することになった。

卒業後、私は大阪市電に入り、君は大同電力に入り、屢々会っていた。守口のあたりの君の家を訪れ、幼い諷子ちゃんを遊んだりしたことを覚えてる。

たことを覚えてる。

同窓の大正十四年組が十四日会を作って、毎月十四日に会合していたが、平井君は常にその仲間であったので、知らぬうちに十四年組と十五年組が一しよにやるようになった。

十四日会のことについては昭和五一年一月の洛友会報に詳細な経緯などを報告しているが、とにかく不思議に仲の良い会である。平井君は最も熱心なメンバーの一人であった。その平井君を失ったことは十四日会としても大きな痛手である。

生者必滅、会者定離というが、自然の大きな法則には人間は無力であることをつくづく感じる。

我々の仕事の面では長い雌伏の壮年期を終えて、終戦と共に「流れ」が変わって、表面に出られるようになった。

平井君は公益事業委員会技術長、電気事業連合会事務局長、それから関西電力に入り、黒部川第三建設事務所長と前進を続け、昭和三年私は原子力発電に移り、君は関西電力で、常務、副社長と進み、昭和三五年電源開発株式会社副総裁となり、更にその二年後に東北電力の社長として東北入をされた。

この間、陰に陽に、公私共に常に互に心を許し合った親しい交り

を続け、君は君の道を私は私の道を歩み来たのである。

東北の地にすっかり腰を落ちつけた君は、度々東京に来られたが、その都度私の所に立寄られた。そして短い時間、時には長い時間二人で色々話合ったものである。

平井君は碁が好きであった。私も前にはよく打つたものである。最近はずいぶん打つ暇もなかったが、私は君の健康のことを心配してゴルフをすすめ、何回か東京で一しよにやったことはある。しかしこの方は、あまり熱心にならず、最近はやめた形になったようである。

お互に早く第一線を退くことと話合ったものであるが、社長から会長になったのが七十才相変わらず二人共忙しかった。

昭和五〇年の十四日大会は卒業五十周年であったので、京都で教室の先生もお招きし、物故者追悼もしたことは洛友会報にも掲載した。

挽歌

日立電線顧問
大正十五年卒

小宮 義和

平井寛一郎君哀傷 十首
氷雨降る京の宿りへ宮城野に永く
若き貌かほ白く声静かなりき
折あらば語らむと思ひしを横浜に

台上立ちてわれら後輩はげまし
若き貌かほ白く声静かなりき
折あらば語らむと思ひしを横浜に

台上立ちてわれら後輩はげまし
若き貌かほ白く声静かなりき
折あらば語らむと思ひしを横浜に

共に遊びし若き日のこと
 新橋の鬧市に立ちて電力の安定供給諄々と説きぬし
 破砕帯の難工事貫き黒四の成りし感激大写しの顔
 はからざる新潟地震にその日すぐ電気送りて治安保てり
 蔵王山の途に求めし千蔵窯の青磁

随想

洛友会会長 松田長三郎

今年、我が電気工学科が創設されてから、80年になります。この間、幾多の優秀な卒業生を輩出して、我国の學術技術に、多大の貢献がなされて来たことを想ふと、深い感謝と、大きな誇りと自負の念を禁ずることができません。今後は、先人の築かれた輝やかしい歴史と伝統の上に、更に、「日に新たなる」學術の、新境地開拓に、一層の寄与貢献をなされむことを、念願せずにはおられません。会員各位の御健康と御活躍を祈念するものであります。別項記載の通り、来る五月27日(土)の洛友会総会には、種々発表のものと存じます。

私共人間の活動は、精神的の勞作であれ、機械的・肉体的活動であれ、何でも一生懸命に精進努力されている姿は、神々しくうつります。今は、大角力奉場所が、大

の急須に君を偲び
 伊豆に会いわづかに語り物憂げと見しが永遠の訣れとなりぬ
 京を離り東に北に幾山河一生捧げし電力事業に
 東北に骨埋めむと誓ひしを人人讃へて君を送りぬ

阪で行はれています。構綱を初めとして各力士の、稽古、又稽古の、火花を散らすような断えざる努力錬磨の連続は、土俵上の勝負如何に係らず、頭がさがります。殊に、去る三月十八日の旭園、魁傑の、10分23秒に亘る、お互に、全身の力を出し尽した感のある力闘は、永く印象に残る好取組でありました。又近頃、若い人達の間におけるスポーツの隆昌は、将来の国家の繁栄の原動力としてもひたむきな真剣な努力とともに、誠に尊とくも頼母しく思はれますし、或はヒマラヤにアルプスに、北極圏に、大海洋に、その旺盛なる冒険心を發揮せられるのを見ると、老の身にも、血湧き、肉躍るの感を禁ずることはできません。近頃の若い人達の勇氣と意氣と決断には、感銘の外、ありません。更に精神的方面においても、た

とへば、例年一月十五日の成年の日に、日本武道館で開催せられていた全国青少年コンクールにおける、青年に真摯な熱氣溢るる熱弁には、我を忘れて、屢々感涙を流したことがありました。こんな青年がいる限り、我国の将来は大丈夫とさえ感じさせられたことでした。今は大学・高校進学を受験シーズンたけなのはの季で、平素の勉学の成果を、この一戦に賭けて努力されていますが、何れは、一喜一憂の結果が待っていることを想ふと、淋しい気分にもなりますし、更に不況時における一般的就職戦線を思ふと暗然たらざるを得ません。

お隣りの中国では、新政権以来、種々の改革が行はれています。孔孟に対する反抗は、以前程ではなくなっているし、教育についても、従来の謬りを是正されているようで、大学教育についても、農業や科学技術の振興が、主要課題になっている。何と云っても、一國の将来を負ふものは青少年であるから、その教育の重要なことは論を俟たない。これに関して報道された所によると、20人の神童、11才から16才までの大学入学者(我国では学制上、これは不可能であるが)は、何れも、模範生らしく、「国家のため、祖国のために、勉強するのです。限り無

い力が湧いて来ました」と、黒い瞳を輝やかせて、希望と抱負を披瀝していたと、中華社電は報じている。眠れる獅子の将来は明るい。我国にも、これに優るとも劣

廉田茂君哀傷 三首

小宮義和

きさらぎの雪舞ふ朝古き友の昨夜
 寝しままに逝きしと伝ふ
 日を語りし君なつかしき
 春寒く二十日あまりにみちのくとなにはの友の続きみまかる

研究室紹介

情報工学科 情報処理講座

昭和33年卒 堂下修司

情報処理講座は、昭和45年に創設された情報工学科の五番目の講座として昭和47年に開設された。私は電子工学科を卒業後、引続き音声符号化の研究に従事した後、昭和43年から東京工業大学工学部において情報処理の研究に従事し、昭和48年7月から再び母校に於て本講座を担当する事となった。ようやく四年を経たばかりの新参の講座で、人、設備共零からの出発であり、まだ充分とは言えないが、学生の数も増えてようやく研究室らしくなり、助教は職員ながら、山崎進助手(昭和45年卒)、北沢茂良助手(昭和46年卒)らと共にに態勢を整えつつある段階である。

議義としては、学部において情報処理論第一および第二を担当しそれぞれ、デジタル的な情報処理の基本技法であるデータ構造、および、アナログ的な情報処理としてパターン認識について講義している。大学院においては同特論第一および第二を担当し、それぞれ、記号処理などの非数値的情報処理のためのプログラミング言語、および人工知能における問題解決法を中心に講義している。

本講座の研究内容を述べる前に情報処理という分野の特質について

(終)

て触れておきたい。情報処理という語は、電子計算機の発達する以前から、ドキュメントや各種のデータの処理を表わすものとして用いられていたが、計算機の発達と共にそれらはすべて計算機による情報処理となり、その範囲も、記号的データ、信号のデータの処理からさらに進んで、文字読取、音声符号化等のパターン認識、自然言語の処理や翻訳等の人工知能の形成など多岐に亘る分野をカバーするようになった。この様な広い範囲を、情報工学科内の一講座ですべて扱うことは実際に不可能である。事実、多くの分野の人がそれぞれの対象に対して、それぞれの立場から情報処理の研究を行っている。しかしながら、そのような個々の情報処理において基本となるべき基礎的な考え方や、構成のための共通的な技法を研究し体系化していく事は、より一層の発展のために必要な事である。また、すべての情報処理が、情報処理機械としての計算機によって行われることから、情報工学科においてそのような研究を行う事は必須の事であると考えられる。本講座はこのような意味での情報処理の基本的問題についての研究を課題としている。

理の技法の研究に大別される。我々の扱う処理対象の多くは情報を表現し伝達し、処理するためのものであり、一つのシステムとして構造化されていると考えられる。それらは大別して、パターンの情報（たとえば音声・文字・画像など）と記号的抽象的な情報（たとえば自然言語、知識の集積、ゲームプレイなど）に分けられるが、これらは何らかの形で言語と密接に結びついている。従って、言語の問題は情報処理の中心的課題であると考えられる。

一方、処理の技法としては、数量的な側面と、論理的・関係的な側面とがあるが、その中心は後者でいわゆる non-arithmetic と呼ばれるものである。パターンの情報においても、数量的な処理が必要であるが、より高度の処理段階として、それらは論理的に「解釈」されなければ有用なものとはならない。このような技法には、アルゴリズムの問題、対象を記述するための言語の問題、データの表現法などの方式的な面と、プログラミング言語、ハードウェア構成、マン・マシンコミュニケーションなど、それらを実際に計算機に行わせるときの implementation 的な面とがある。現実には種々の異った構成の計算機が用いられているが、これらの機械にも共

通的に処理が行えるよう、システムは machine independent に構成される必要がある。

もう一つの情報処理の重要な側面はシンタクス（構造）とセマンティクス（意味）の問題である。シンタクスは、記号列としての字面上の構成法（規則）を定めるもので、情報系の枠組を明確な形で定める。これに対しセマンテックスは、その記号列の表わす意味内容や評価に関するもので、はっきりとした形で規定されず、多様性を伴っている。たとえば、言語の文法はシンタクスでこれに基いて共通的に日本語文は述べられるが、その意味の理解はかなり多様的で、一意的ではない。推論においても、推論の方式はシンタクスの定められるが、その前提条件は多様で、同じ推論法でも、逆の結論（意味）になる事もある。

シンタクスに関してはかなり明かにされつつあるが、セマンテックスをどう扱うかは知識をどう表現し体系化するかという人工知能の問題ともからんで、残された重要なテーマとなっている。

このような研究の課題と取り組んでいる。

一、論理的な処理に関する研究。
推論や思考に用いられる命題論理や第一階述語論理の処理におけ

る計算時間や記憶領域の複雑性に関する研究、機械的に定理証明を行わせるための方法とそれによる問題解決法の研究、機械における知識の表現と形成方法の研究など。

二、自然言語の理解に関する研究。
自然言語の解析と、それを通じての知識の蓄積、それらの応用としてのアブストラクトによる文献の整理・分類と検索システムの構成など。

三、誤りを含んだ文の文法的解析における誤り訂正の問題。

四、情報処理用システムの作成。
LISP等の人工知能的な処理のためのプログラミング言語とそ

のためのハードウェアの作成。

五、計算機においてこのような情報処理を行わせるときの基本的なメカニズムに関する研究。

これらについて部分的な成果を挙げつつあるが、いづれもかなり困難さを伴うものであり、研究の緒にいたばかりのものが多し。

また、現実の実用的な情報処理とはやや距離がありすぐに結び付く所まで到達していない。しかし、これらは、本格的に情報処理を行おうとする場合に解しておかねばならぬ問題であり、情報工学における一つの重要な課題として、今後共研究を進めていくつもりであります。

昭和52年度電気系教室
卒業生の就職・進学状況

京都大学教授 高木俊宜
昭和22年卒

本格的な不況、貿易を中心とした諸外国からの圧力など、52年度就職環境は決して楽観を許さない状況ではありましたが、永い伝統と卒業生各位の御活躍の歴史に支えられて、企業からの採用申し込み件数は好況時と殆んど変わらず、御世話致します教室としては本当に有難いことでした。できるだけ広汎な分野で活躍して貰い、

国立大学として一企業に過度に集中することのないよう、しかも本人に適した職場を本人の納得するうえで、例年のことながら教室主任は辛抱強く学生諸君との対話を繰り返してまいります。大変な時間と労力を必要としますが、若い人達との心のふれ合いを、先輩として後輩にできるだけ有益な助言を、また社会に対してはできるだ

け有能な人材をといった気持ちで各教官とも精一杯の努力をしているつもりです。

しかし、仲々に入社試験は厳しく、小教精鋭主義でと云う会社の姿勢にこたえられず第一志望の企業に採用されなかった者も出て参りますが、お蔭様で就職希望者の殆んどは就職が内定し、別表の通り各方面で活躍できることになりました。

学部四回生の大学院進学希望者は他大学からの志願者を含めて162名に達し、なかなか狭き門でしたが62名(全合格数76)が進学予定となつて居ります。また修士から博士課程へは7名が進学致しました。

学力社会を迎えて実力と意欲をより一層求められる社会となり、学生の心構えも大分良くなって参りましたが、教育研究面における尚一層の努力を痛感して居ります。尚博士課程終了者は5名であるが内4名は大学関係(京大、名大、京都産大)一名は電波研究所となつて居る。

最後に学生の採用について何かと御配慮を戴いております洛友会々員諸兄に厚く御礼申しあげ、今後とも御厚情を賜りますようお願い申しあげます。

電気系3年卒業生就職・進学状況

種別	学部	大学院	就職先	進	
				学	計
官庁、研究所、大学	2		電波研、警察庁、人事院、福井県庁	62	115
通信、放送	2		電々公社、KDD、NHK	7	69
電力、ガス	3		関西、中部、中国、東京、四国各電力		
交通運輸	5		国鉄、阪急、阪神、京阪、南海		
総合メーカー	6		日立、三菱、東芝		
強電メーカー	3		富士電機、日新電機		
弱電メーカー	18	12	日電、松下、新日電、富士通、横河、シャープ、新日本無線、日本IBM、富士通フアナック、アルプス、松下電工、日電ソフト、島津、パナフコム		
電線工業	1	2	住友電工、古河電工、昭和電線		
製鉄工業、金属	0	4	新日鉄、川崎製鉄、神戸製鋼、住友金属		
機械、造船、自動車	3	3	日産、三菱自、フジテック、川崎重工、三菱重工、トヨタ、日電装、ミノルタ、富士フイルム、ダイキン、大日本スクリン、京都新聞、大阪府都市開発、東洋製缶、ポストンコンサルティング、専売公社、ブラザー工業、高周波熱錬灘高校		
その他	10	5			

昭和52年度情報工学教室卒業生の就職・進学の状況

京都大学教授 矢島脩三 昭和31年卒

昭和45年に創設された情報工学教室も8年の歳月が過ぎ9年目を迎えるとして居ります。昭和52年度は、修士第3期生20名および学部5期生38名が学窓より育つて

いくことになりました。本年度の卒業生の就職の世話をいたしましたので、その概要を述べさせていただきます。昭和52年度は相当な就職難の年

工学教室卒業生就職・進学状況

種別	学部	修士	就職先	進	
				学	計
官公庁関係	2	5	科学技術庁、気象庁、電々公社、国鉄、市役所	19	38
計算機製造販売(含電気メーカー)	13	9	日立、日電、富士通、東芝、三菱、松下、立石、日本IBM、日本NCR、カシオ、島津、日電、フアコム、ハイタク、松下電工、松下電送、進工業、石垣機工		
ソフトウェア関係	2	1	野村コンピュータシステム、東洋情報システム、関西日電ソフト		
製造業一般	1	2	川崎製鉄、エッソスタンダード、東洋エンジニアリング		
サービス業一般	0	0			
その他業種	1	0	毎日放送		
(小計:就職者数)	(19)	(17)	(計36名、就職先29ヶ所)		
進学	19	3	修士課程へは機械系出身の1名を加へ計20名入学。博士後期課程へは3名進学。		
計:卒業生数	38	20			

とされましたが、計算機分野の広用の拡がりを反映して、百数十社よりの御求人可直接頂戴し、スタートして間もなく、お蔭様にて、百パーセントの就職率に達しました。卒業生の数が、もともと限られており、この多方面よりの御要望に十分お答えできず申し訳なく存じております。

求人下さいました会社は多数にのぼりますが、しかし、その条件は大変厳しいものがありません。いつの時代も同じかもしれませんが、不況時の就職線はとくに明暗2分というか、引く手あまたの場合と、どこにも相手にされない場合とに分かれるというこのようでありませぬ。京大の情報系ソフトのみならず、ハードのセンスもあるという事で最終的には明一色となりましたことを喜んでおります。

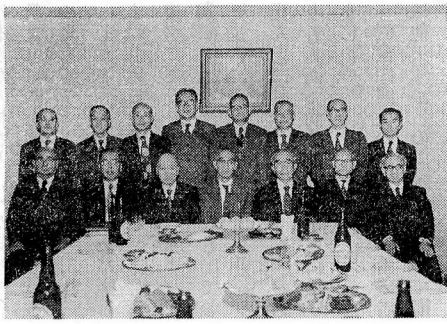
本年度の卒業生の就職・進学の状況の一覧を記しました。公務員試験を受けるのも増えてまいりました。修士1回のとき受験し予め調子をみておき修士2回にもう一度受験して本番というケースもあります。電々公社、国鉄も昨年同様採用たまりました。計算機関係で、よい人なら何人でも採るとまでおっしゃって下さる会社、

一方、非常によくやる学生を推薦しましたが、情報工学で教えてない分野の専門試験を課され苦戦させられた例等々枚挙にいとまありませんが、卒業生はあまり一ヶ所に集中するのではなく、むしろ種々な分野に適當年間隔で分布するのが好ましいと考えられますので、これは学生共々苦慮いたしました点とも思います。

就職につきましては、関係各方面より多大の御援助をいただきまして心より感謝いたす次第でございます。今後共、卒業生および後輩のより一層の御指導と御鞭撻を願ひ申し上げます。

四十周年クラス会報告

昭和五十二年十一月十九日、東京都千代田区段北四丁目二ノ二

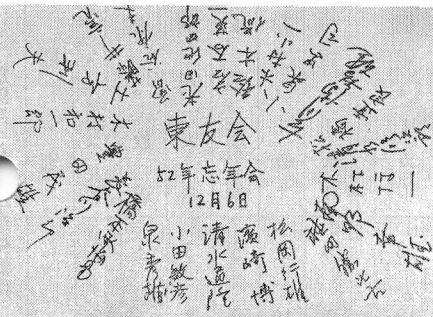


井上九郎 中島知事
志賀 志川 徳夫
石崎 彦彦
洛友会(昭和五十二年) 五十年
四十周年記念
クラス会 出席者
河合泰治 田崎 高義
河合 泰治 橋本 博一

五、私学会館にて、卒業四十周年を記念して、クラス会を開く。九州より野田氏、関西より、岩元、井原、中野の諸君の参加を得、十五名にて盛大なるパーティーを開き、時の流れを忘れ、昔をしのぶ。又楽しからずや。
十二年会 幹事 正木知己 記之

東友会について

洛友会東京支部からの勧奨もあって、支部会員の昭和17、18、19、20年卒業の連合クラス会が、



東友会なる名称で48年度にスタートし、月一回定例中食会を続けていますが、出席者は平均20名程度ですが、一時間ばかりの歓談を楽しみにしている方も多く極めてなごやかな雰囲気です。たまにはゴルフも行っていきます。幹事後は各年次回り持ちで今年度は18年の番です。

12月6日には日立製作所の大崎クラブで夕方から忘年会(これも恒例になっています)を行い出席者23名で盛会でした。記念に寄書をしましたので御披露します。
(18年 小田記)

デルタ会の方々へ予告

皆さんからの御要望によりまして本年の秋(10月末か11月中旬)頃に東海地区で一泊を含む総会を開催し七拾七才以上の先輩の会員に記念品として金飾の長寿箸を贈ることにして目下企画していますので地元の方は勿論のこと東京からも京阪神からも恰度中間に当りますから何卒万障お繰合せの上参加下さるようお願いいたします。詳細については六月初め迄には決定しますから出席御希望の向きは、ハガキで左記宛に申し出て下さい。
田町六五 上野 満方
洛友デルタ会 連絡所

尚、近況短信の編集にとりかかっていますので早く返信を投函して下さい。(企画係)

訂正

前号同窓会記事「昭和十七年

昭和53年度洛友会総会通知

- 一、日時 5月27日(土)午後3時より受付開始
- 二、会場 大阪中央電気クラブ
- 三、日程 関西支部および本部総会 午後4時より5時
講演 関西電力(株)会長 午後5時より5時30分
芦原 義重氏
- 懇親会 午後5時30分より
午後7時30分予定
- 四、会費 会員 二、〇〇〇円 同伴者 一、〇〇〇円
解 散
昭和53年度卒業生 無料

会費は別紙総会振替用紙にてお払下さい。なお、これをもって総会出席通知に代えますので、御出席の方は5月20日までに御返事を御願ひ致します。
本会合には御家族同伴を歓迎しますので、多数御誘い合せの上、御出席下さい。

洛友会々々費納入のお願い

昭和52年度会費未納の方には、納入請求の印を押して会報と共に送付致しますので、速かに御払込み下さい。
昭和53年度の会費も、早い目にお払込み願ひします。

計 報

講大5年	上田徳次郎	53・2・6	大7年	小田 部数	53・3・1
講大7年	志波 種吉	51・3・22	大13年	岐美 忠雄	53・3・7
講大8年	米原 長市	50・4・1	大15年	平井寛一郎	53・1・13
講大11年	天野 正作	52	昭4年	馬淵 良逸	53・3・6
講大12年	土岐伊一郎	52・5	昭7年	松井 登兵	53・2・21
講大13年	野々村和吉	52・7・19	講大13年	菊田 守善	53・1・17
講大14年	結城 都一	52・12・26	講大16年	前川 久一	52・3・14
講大15年	川合 恒夫	53・1・27	講大17年	以上の方々のご逝去なさいました、謹んで哀悼の意を表します。	
講大17年	各務米次郎	53・1・27			